

城東じ・ば・子の「茶の間」における 学生による地域福祉実践研究

社会福祉学科 堀川 涼子

はじめに

わが国の喫緊の課題として少子高齢化、とりわけ認知症支援の問題があり、これは当大学が位置する津山市でも大きな課題である。さらに地域住民同士の関係の希薄化は、これらの問題を重度化、複雑化させる一要因となっている。

社会福祉学科小坂田・堀川研究室ではこのような地域課題に対して、認知症支援のカフェを開催する等、地域福祉実践活動を行っている。また、高齢化が進む城東地区において、学生が「地域住民」として城東まちづくり協議会による「じ・ば・子のおうち」活動への参加、城東地区の様々な伝統行事活動などへの協力参加、さらには「ご近所福祉・まちづくり活動」等を行っている。

このように少子高齢化が進む城東地区において、学生が地域住民として高齢者等の生活支援活動をすることは、美作大学の地(知)の拠点としての意義があると考え、継続して学生の地域福祉活動を行っている。

1. 城東地区の概要 (2019年1月1日現在 津山市統計書より)

津山市城東地区は津山のシンボル鶴山城の東に位置し、北は丹後山、南は吉井川にはさまれた地区である。13町内会からなり、人口は1,253人、世帯数は570世帯、高齢化率は50.8%、年少人口比率は9.0%であり、市内でも少子高齢化率の高い地区である。旧出雲街道沿いには古い町並みが続き、伝統的重要建造物群保存地区に選定されている。観光地としての整備が進む一方で、丹後山にかけての急な坂道や狭い路地が多く、空き家が目立ち、昔ながらの日常生活を扱う商店も減り、生活に支障のある高齢者も少なくない。

2. 「じ・ば・子のおうち」・「じ・ば・子のおうち『支縁』」とは

「じ・ば・子のおうち」プロジェクトとは、少子高齢化が進む城東地区において、子どもと高齢者等世代を超えたつながりを作り、地域の課題解決をめざすことを目的に、2012年から行ってきた三世代交流の地域福祉活動のことである。構成員は城東まちづくり協議会地域福祉事業部を母体とし、津山市社会福祉協議会・地域包括支援センター、津山市健康増進課、そして美作大学社会福祉学科自主ゼミである。2019年度には自主ゼミ活動として7年目を迎え、初代から隔学年で関わってきた学生は、4代目の4年生7名、5代目の2年生15名が活動を行った。

「じ・ば・子のおうち『支縁』」とは、「じ・ば・子のおうち」の活動をもととして、城東地区にある空き家を大学が借り上げ、2015年11月から学生が居住し、「地域住民」として地域福祉活動を実践している地域拠点。学生の居住空間である『支縁』と、別棟の共同スペースである『じ・ば・子の茶の間』で構成されている。

3. 認知症支援「おあしすカフェ」とは

『じ・ば・子の茶の間』を活用して、2016年から月に1回、認知症支援「おあしすカフェ」を開催している。認知症カフェとは、国の「認知症施策推進総合戦略オレンジプラン」によると「認知症の人やその家族が地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場」とされている。

おあしすカフェは、津山市認知症の人と家族の会「おあしすの会」との共同開催であるが、企画運営に学生が関わり、地域福祉活動実践と認知症高齢者支援を体験している。学生の役割は、当日までにレクリエーションや体操等の企画準備、当日の会場設営、来客の対応、認知症のご本人や家族の話の傾聴、レクリエーションや歌唱の支援、

そして片付け、報告書の作成などである。その中でも特に認知症のご本人とのコミュニケーションを図ること、ご本人や家族の生の声を聴きその生活に思いをはせることは学内の授業だけではできない貴重な経験となり、学生の大きな成長につながっている。

4. ふらっとカフェとは

ふらっとカフェとは、津山市が勧めている「歩いて行ける範囲に、フラットな人間関係で、近隣同士が気軽にふらっと通える場」のことである。住民主体のこの取り組みを「支縁」入居学生が2019年5月から準備を始め、第1回目を6月に開催することができた。管轄である津山市高齢介護課や、津山市地域包括支援センター等との連絡調整やうち合わせ、近隣住民への周知など、学生が自発的・主体的に開催できたのは、これまでの「じ・ば・子のおうち『支縁』」の活動が基礎となっている。少しずつだが、「地域住民の一員として、ご近所福祉・まちづくり実践を行う」という『支縁』のコンセプトに近づいているといえよう。



5. 学生の活動実績

① 2019年度のおあしすカフェの実績は以下の通りである。

4月19日・5月17日・6月21日・7月19日・9月20日・10月18日・11月15日
12月20日・1月17日・2月21日（3月は感染症拡大防止のため中止）計10回開催。

	ご来所者内訳							来所者計
	①当事者 (本人)	②介護 家族	③地域 住民	④福祉系 専門職	⑤美作大 教員 学生	⑥おあ しす の会	⑦その他	
4月	5	11	4	4	7	7	0	38
5月	6	9	4	1	9	5	2	36
6月	7	13	4	0	9	4	2	39
7月	7	13	4	1	6	4	1	36
9月	6	13	3	0	7	4	3	36
10月	8	14	4	1	7	2	2	38
11月	6	12	4	1	8	5	0	36
12月	6	11	4	0	7	5	1	34
1月	6	11	3	0	7	6	3	36
2月	3	10	3	1	7	4	7	35
合計	60	117	37	9	74	46	21	364
2019年度 平均	6	11.7	3.7	0.9	7.4	4.6	2.1	36.4
2018年度 平均	4.6	11.3	4.1	1.9	5.2	5.6	2.2	34.9
2017年度 平均	2	5.5	3.2	1.3	5.9	4.8	1.8	24.3

2019年度は、前年度に比べ、ご本人の参加が増え、介護家族の方も継続して参加している。ご本人や家族の参加が継続して増えていることから、「認知症の人と家族のための」カフェになってきていることを実感している。

さらにこの活動を通じて、4名の学生が津山市の「アルツハイマーデー実行委員会」に学生委員として参画し、津山市内のさまざまな「世界アルツハイマーデー in 津山」の企画の運営に携わった。このことは、学生が「おあしすの会」の会員のみならず、認知症支援にかかわる様々な機関・職種等と出会う機会となった。さらに大学においても認知症支援のシンボルカラーであるオレンジライトアップや、大学祭での啓発パネル展示など学内外で認知症理解啓発活動を行った。



② 支縁入居学生の2019年度の主たる活動は以下の通りである。

*4月～2020年3月 毎月城東まちづくり協議会定例会へ出席

*4月～2020年3月 毎月じ・ば・子のおうち運営委員定例会出席

○4月06日 子ども居場所事業 お花見

4月14日 第四回縁むすび交流会

4月18日 じ・ば・子の運営委員会

4月20日 子どもの居場所事業 母の日のプレゼントづくり

5月8日 子どもの居場所事業 グランドゴルフ

5月16日 じ・ば・子の運営委員会

5月25日 城東まちづくり協議会総会

6月2日 町内清掃参加

6月20日 じ・ば・子の運営委員会

6月15日 子どもの居場所事業

6月22日 第一回ふらっとカフェ



7月中 近所に住むAさん宅の花に水やり

7月18日 じ・ば・子の運営委員会

7月27日 第二回ふらっとカフェ



8月4日 ごんご祭り わっしょい津山参加
 8月11日 じ・ば・子の夏のお泊り会（～12日）
 8月15日 じ・ば・子の運営委員会
 9月19日 じ・ば・子の運営委員会
 10月9日 じ・ば・子の運動会
 10月17日 じ・ば・子の運営委員会
 10月20日 五平切 しめ縄張り

10月26日 第三回ふらっとカフェ

11月03日 城東むかし町参加
 11月17日 じ・ば・子の文化祭
 11月21日 じ・ば・子の運営委員会

11月23日 第四回ふらっとカフェ

11月17日 じ・ば・子の文化祭

12月14日 三丁目忘年会

12月19日 じ・ば・子の運営委員会
 12月21日 子ども居場所事業 大掃除

○2020年

1月18日 子どもの居場所事業
 1月16日 じ・ば・子の運営委員会
 2月01日 子ども居場所事業
 2月15日 子どもの居場所事業
 2月20日 じ・ば・子の運営委員会
2月23日 第五回ふらっとカフェ
2月25日 四年生を送る会
 3月19日 じ・ば・子の運営委員会

*4年生が1人卒業により退去となり、

新たに令和2年度より新2年生が2名入居することが決まった。

以下は、上記活動についての支縁入居学生の感想である。

一回目のふらっとカフェでは、お茶とお菓子を用意し、集まった近隣住民に対して「じ・ば・子のうち『支縁』」について説明を行った。初めての試みで不安もあったが、こうした取り組みにより、地域住民に『支縁』のことを理解していただき、学生の存在を知っていただく機会になった。また、地域の方からは、「集まる場があると、知り合いが増えて良い。とても楽しい時間だった。」との感想をいただくことができた。このときに、次月に入院を予定している独居のAさんから、入院中、庭木の水やりができずに困るという話を聞いた。そこで、2週間の入院期間中、学生が代わりに水やりをすることを申し出た。Aさんが退院後、庭木や花が枯れていないのを見て、とても喜んでくださったときには、地域の助け合いの必要性和やりがいを感じる事ができた。三回目にはバーベキューの準備を近隣の方にも手伝っていただいた。また五回目には子どもたちの参加もあった。

来年度も4月には、第六回目のふらっとカフェを計画している。現在は、学生が主となりふらっとカフェを開いているが、ゆくゆくは近隣住民の方と協働して開催することを考えている。今後、ふらっとカフェがご近所の方にとって気軽に集まれる場になれるよう、今年度の反省点を踏まえ、活動していきたい。



6. 成果と今後の計画

1) 小坂田・堀川研究室と他団体の協働による認知症高齢者や介護家族支援

おあしすカフェは年々参加者が増えてきている。中でも認知症高齢者と家族の参加が増えてきたことは、おあしすカフェの存在が必要とされていることを実感できる。参加者の中には、参加理由にカフェに学生がいることをあげる人が少なくない。「若い人といると元気になる」、「学生が一生懸命自分の話を聴いてくれるので、来るのが楽しみ」、「福祉を学ぶ学生に体験を伝えたい」等、学生が参加者に果たす役割は大きい。学生もまた「認知症ご本人の話が直接聞ける」、「かかわり方の勉強になる」と感じており、実践面でもレクリエーションの企画をしたり、当日の進行をしたり、人前に立つ経験を重ねて成長していることがうかがえる。

今後は、カフェの中で認知症ご本人の役割をつくり、それを学生がサポートできる体制づくりを行いたい。その経験を通して学生には「本人主体」のソーシャルワークを学べる機会をつくりたい。さらに城東地区の民生委員等との連携を模索し、認知症理解の啓発活動から地域住民への働きかけを行っていききたい。

2) 支縁の入居学生による町内会のつながりづくりと高齢者支援

『支縁』のある上之町3丁目には集会所がないため、2018年度より共同スペース『茶の間』を活用することにより、町内会で気軽に集まれる機会づくりを行ってきた。これまで行ってきた「縁結び交流会」の開催により独居あるいは日中独居の高齢者が地域で集まる居場所を求めていることが明らかとなった。そこで、現在、津山市が進めている小さな地域の居場所「ふらっとカフェ」を『茶の間』で開催することとし、2019年度より開始、定期的に5回開催することができた。さらにカフェに参加した独居高齢者のつぶやき「2週間入院をする間、庭の草木が枯れてしまわないか心配」という声を学生が拾い、自ら手をあげ、入居学生が交代で庭木の水やりをした。これは『支縁』のコンセプトである「地域住民の一員として、ご近所福祉・まちづくり活動を行う」ことそのものである。来年度も引き続き、「ふらっとカフェ」を開催し、地域の方一人一人のニーズに対応できるよう、働きかけていきたい。

以上二つの取り組みから、「地（知）の拠点」があることにより、さまざまなつながりの中で、学生の地域福祉実践力が高まっていると考える。